



附属図書館所蔵・若林泰氏収集文書における画像と 目録リストとの照合作業（活動報告）

下箱石，響

(Citation)

Link : 地域・大学・文化 : 神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター年報, 15:127-128

(Issue Date)

2023-12

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCoDOI)

<https://doi.org/10.24546/0100489545>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100489545>



神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター活動報告

附属図書館所蔵・若林泰氏収集文書

における画像と目録リストとの照合作業

下箱石 響

本稿は、神戸大学附属図書館に所蔵されている、若林泰氏家文書における画像と目録リストとの照合作業を総括したものである。

当該作業の目的は若林家文書の資料画像をデジタルアーカイブで公開する準備であった。附属図書館の方々に、事前に当該資料に対して画像と目録のそれぞれにリスト（エクセルファイル）が作成されていたが、原資料と画像および目録の対応関係が不明であったため、原資料と該当するデータとの紐づけ作業が完了していなかった。そこで最終確認として当該作業を行う者として、縁あって本稿の執筆者が機会をいただいたのが、作業開始までの経緯である。以下、作業内容について述べる。

当該作業は、附属図書館の方々が用意した

マニュアルにしたがって行った。作業の流れとしては、原資料と画像を照合し、(1)画像と資料が対応しているか、(2)画像における公開可否、(3)撮り直しを含む重複している画像については不要なものはあるか、と大きく三つの観点をふまえて画像リストに記入した。また、原資料を実際に見たことで判明した情報

がある場合、画像に対しての補足であれば画像リストに、対応する目録の内容に対しての補足であれば目録リストから検索し、所定の欄に適宜補足した。当該資料は当初段ボール箱に収蔵されていた。そのため図書館の方々の指示のもと、画像と目録との照合作業を終えた資料から、箱単位で順次中性紙保存箱に移

していった。

当該作業は令和三年九月より開始し、令和四年一月には原資料と画像との照合および紐づけの作業が、そして令和五年五月をもって原資料と目録との照合・紐づけの作業が終了したことで、全作業が終了した。当該作業の対象資料数は五二一八点、対象画像数は六八五〇枚であった。

当初は原資料と画像との照合作業を優先し、それが終わり次第、改めて原資料と目録との照合作業を行うという流れを考えていた。しかし、作業がある程度進んだ段階で、原資料と画像および目録の照合を同時に行っても支障がないと感じたため、以降は画像との照合と目録との照合を並行して行なった。

画像との照合作業では、第一段階として原資料と照合し、もともと画像が保存されていたフォルダから、公開準備用として作成された新しいフォルダに移動させた。新しいフォルダは資料番号ごとに用意されており、さらに公開を考慮した場合の画像の状態によって細分化されていた。公開することに問題があ

る場合は「非公開」に、重複している画像については画質を比較したうえで不要分を「不要」に、作業者による判断が難しく図書館側の判断を改めて仰ぐ必要がある場合は「保留」にと、それぞれ所定のフォルダに移動させた。続いて第二段階として画像ごとに、画像リストに照合させた原資料の資料番号や史料内の画像順、公開の可否やその程度、個人情報の有無、そのほか補足を入力した。画像自体について向きが不適切な場合は修正したうえで新しいフォルダに移動させた。

目録との照合作業では、原資料に対応する目録について、内容が原資料と対応しているかを確認した。その後誤りがあれば訂正する必要があるので、修正内容を目録リストの所定の欄に適宜入力した。内容の修正については、資料の形態や作成者、宛名に対して入力したが、当該資料の大半に対して行った。これは作業者が目録リストの内容のままで公開した際の資料検索にかかりにくくなる可能性があると考えたからである。当該資料の大半は目録と対応していたが、なかには対応する資料が不明なものや、特定の資料郡の総称であるのに独立した一点の資料の目録として

記録されているものも見受けられた。前者は対応する資料を探して適宜修正し、後者は該当する資料の目録に反映させるように図書館側へ意見を記入した。

以上、当該作業の総括を述べた。課題としては、入力した内容に対する修正作業を行うことが多々生じ、その度に前回までの入力内容を最初から修正することになって、作業期間が想定よりも長くなった点が挙げられる。この原因としては、図書館側と作業者との間で入力内容や記録の方法について、基準や認識を詳しく共有できていなかったためと考えられる。また、資料や画像の状態によつて確認事項や入力方法が細分化されており、複雑であったのも原因と考えられる。作業が進むにつれて慣れていったものの、それまでにかかりの時間を要してしまい、またその過程で入力内容の誤りが生じてしまったため、上記の修正作業に時間を要することになったと考えられる。

仮に今後当該作業に類似するものを行う際は、作業期間を短縮することが望まれる場合は、事前に入力内容や方法について、より詳細に基準を共有しておくことが必要になると思わ

れる。

なお、当該作業後に公開予定の史料の画像に不備があるもの、および目録に再検討の箇所がいくつか見受けられたため、二〇二三年七月より該当画像の再撮影および該当データの修正作業を行っている。